

ビューティフル・ガールズ

作・佐藤かつら

盛岡市立高校演劇部

【キャスト】

美雪

アミ

中条

前川

波多野

第一場

放課後の高校。
とある教室。

机と椅子が雑然と並んでいる。
人はいないが、とりとめのない小物が散乱し、ダンボール箱まである。
上手と下手に出入りのドアがある。

上手から中条と前川が入ってくる。

前川　なんで掃除なんかしなきゃいけないわけ？

中条　あんたが計画書ダメにしちゃったからでしょう。

前川　違うよーあたしじゃなくて

弟が牛乳こぼしたからだよ！

中条　そんなところに置く方が悪い。

前川　そうやって全部あたしのせい？

いいよもうー今日もやっちゃうから。

前川、机に置いてあるカバンを取り上げ、ゴミ箱に投げる。

中条　ばれても知らないんだからね。

前川　そう言っているのかもばってくれるんだから。

中条　とにかく掃除もちゃんとやってよね。

前川　ね、ね、コイツってさ、どんなん聞いてんだろね。

そこにあったTPOを手に取り、

二人は顔を寄せてイヤホンを耳に当てる。

前川　なにこれ、変な音：

…雨の音？

中条　あ、降ってきた。

中条は窓の外を見あげる。

雨が音を立てて降ってきた。

中条　どうしよう、傘ないし。

前川 明日出発だって言うのに雨――？

ホントいいことないよね、最低――。

前川、Tomyを床にたたきつける。

中条 ちょっとー、あれ？ 動かないんじゃない？

前川 え、うそ、どうしよう、ねえ、

中条 あ、そうか、前川、行こう。

前川 え、どこに？

中条 部室。

前川 あ、そう言えばあたし、傘、部室に置いてるー。

二人、下手のドアから退場。

第二場

雨の音。

まもなく上手のドアから、三人が入ってくる。

美雪とアミは談笑しながら、一足遅れて波多野である。
それぞれ掃除にとりかかる。

美雪 なんで一人でトイレに行けないのー？

アミ だって幽霊出たらどうすんの？

美雪 アミはほんと、小学生だね。

アミ あ、小学校の修学旅行ってどこだっけ。

美雪 人の話を聞かないし。

アミ 中学校はー東京だったんだけど。

美雪 アミー。

アミ 美雪は？ 中学校の時の修学旅行はどこに行った？

美雪 ー群馬。

アミ 群馬ー群馬かあ。

波多野、ゴミ箱に捨てられた自分の荷物を見つける。

美雪とアミはまだ気付かない。

美雪　ちょっと、ちゃんと掃除してよ。

アミ　ごめんごめん

美雪　だいたい、こうやって残されているの、私たちだけだよ？

しかも修学旅行はイッカラデシタカー？

アミ　えーと…もしかして…

美雪　（二人同時に）雨！

アミ　あした！

美雪・アミ　あーあ。

アミ　でも、みんな薄情だね。

クリちゃんたちだって、明日のために買い物ーとか言ってさー、せっかくの午前授業がさ

美雪　波多野さん？

美雪とアミも気づく。

美雪・アミ　（口々に）わ、これ何。

え、え、え？

ひどいー。

美雪　先生のとこ行く？

波多野　（首を振る）

アミ　だよな。

波多野、TPOを拾いあげる。

美雪　最近うちの学校、なんか…だよな？

アミ　え、なにが？

美雪　治安が悪いつていうか。

先週もクラブ棟が盗難にあったって。

アミ　ああ、部室荒らし。

なに考えてんだか。

美雪　窓をさー、ガシャーン、グワシャーン、グワシャシャーン。

波多野はTPOをゴミ箱に乱暴に捨てる。

美雪・アミ　え

波多野、バッグを持って上手のドアから走って出ていく。

美雪 波多野さん！

アミ …あーあ、動かない。

捨てるんだったら、くれればいいのにー。

これ…よくやるよねー。

ま、やられる方もやられる方っていうかー

美雪 そんな。

二人、波多野の去った方を見る。

美雪・アミ (同時に) 波多野さんてさあ…

美雪・アミ あ、ごめん、なにになに？

二人少し譲り合ったあと

アミ 波多野さんね、1年のとき、停学1ヶ月。

美雪 え、そんな休んだことあったっけ？

アミ 普段から休みが多いから目立たないんだよ。

美雪 なんて？

アミ なんでも職員室からお金を盗んだんだって。

美雪 え、なんで？

アミ なんてって、知らないけど。

美雪 っていうより、そんなことできるの？ 職員室からなんて。

アミ まあ、噂なんだけど。

美雪 なんだ噂か。

アミ でも、陰で何やってるかわかんないってこと。

美雪 でも、なんか波多野さんっていつも…

アミ どうせうちらには関係ないんだから、放っておけばいいよ。

美雪 でもさ、旅行中は私班長だし。

アミ そっかー。

アミ あーあ、何でこんな班になっちゃったのかなー。

美雪 ごめんね。

アミ 美雪は悪くないでしょ。

メンバーが最悪だよな。あたしたち二人の他が、中条、前川…で、波多野さんでしょう。行動計画表だって前川がダメにちゃうし、中条さんは勝手に仕切るし、波多野さんはしゃべらないし…

美雪 私がもう少ししっかりしていれば…

アミ　しょうがないって。運が悪かったんだよ。

美雪　：私ね、修学旅行すごく楽しみにしてたんだ。

ほら、うちのクラスってあんまり仲良くないじゃない？

アミ　ってゆうか最悪。

美雪　うん。

でもね、旅行の間だけでもなんとか楽しくやれないかな？

班も、私が班長になったのは、そりゃたまたまなんだけど、でも振り返ったときに、みんな楽しかったねーって思い出せるように、っていうか：

アミ　うん：

（荷物を詰め込んだダンボールを）あ、それ終わった？

美雪　あ、うん。

アミ　じゃあ、あたし持って行くよ。

どこ持って行けばいい？

美雪　職員室だって。

じゃあ私も：

アミ　一人でいいから。

美雪は、机直してくれる？

美雪　じゃあお願い。

アミ　行ってくる。

アミ、上手のドアから出て行く。

美雪は机を直し、掃除用具を片づける。

少しして上手から波多野が入ってくる。

美雪　（波多野に）大丈夫？

波多野は自分の荷物をつかみ、

そのまま下手のドアから出て行く。

美雪　波多野さん！

波多野　（独り言のように）ばっかみたい。

美雪は波多野の後を少しだけ追いかけて、下手のドアから見送る。
ため息をつき、教室の中に戻ったところで

上手からガラスの割れる音「ガシャーン！」

すぐ続いて非常ベルが鳴る。

放課後の校舎全体にベルの音が響き渡る。

美雪、しばし茫然と立ちつくす。

照明、少し暗くなる。

第三場

照明が戻る。

さきほどの教室に4人がいる。机にたてかけた傘が1本。

美雪・アミ・中条・前川である。

中条　なんで前日にこんなことにならなきゃいけないの？

前川　せっかく掃除が終わったのに。

アミ　先生に残れて言われたでしょ。

中条　それは掃除をしていけてって意味だったでしょ。

本当はもう帰れる時間なのに。

アミ　（独り言っぽく）んなこと言われても。

中条　（外を見ながら）ま、この天気じゃどうせ帰れないけど。

で、結局、さっきのつてなにー？

職員室前の落とし物ボックスが割られて、TPODが盗まれてたんだって。

前川　（クスクス）えー、だれがやったのー？

中条　わからないから残されてるんでしょ。

前川　えー波多野さんでいいんじゃない？

美雪　まだ波多野さんだって決まったわけじゃないと思うけど。

前川　じゃあなんで生徒指導室で事情聴取されてんの？

アミ　残ってた人順番に聞かれるんじゃないの？

中条　一人ひとりなんて効率悪いよねー

前川　だから波多野さんでいいでしょ。

アミ　（美雪に）ねえ、構内に残ってる生徒ってあたしたち以外にいないの？

えーとね、部活の子たちは残ってたけど、みんな外のクラブなんだって。

ほら午前授業だったし、明日の今日だから、校内には誰もいなかったみたい。

ねえ、その、盗んだ…人って、

犯人。

前川　だから波多野。

美雪　どうなるの？

アミ　どう、ってわかんないよ。

前川 （クスクス）停学？ 退学？
アミ そんな大げさな。
美雪 でも…修学旅行には行けるのかな？

それぞれは軽い衝撃を受けたのか、しばしの沈黙。

前川 えー最低。

修学旅行に行けなくなるの？

中条 むりなんじゃない。盗みって犯罪だし。

前川 えー

アミ でもびっくりしたよね。

ほらあたし、ちょうど職員室の中にいた所だったから。

中条 犯人を見た？

前川 波多野？

（首を振る）

美雪 だから波多野さんって（決まってない…）

アミ 美雪は教室にいたんだよね？

美雪 あ、うん。

アミ 中条さんたちはどこにいたの？

中条と前川、顔を見合わせる。

前川 （クスクス）部室？

中条 部室から図書室に行ったじゃない。

あたしたち二人で図書室にいたの。

アミ 何の用で？

本読むために決まってるじゃない。

アミ へー、修学旅行の前の日に？

中条 これって何の尋問？

別に。

中条 図書室はあっち（下手を指さし）の端だから、こっち（上手）のことは何も知らないし、気付きませんでした。

非常ベルは聞こえてたけど。これでいい？

アミ いい？って言われても。

美雪 ねえアミ、私、いま思い出したんだけど。

アミ 何？

美雪 あの、非常ベルの鳴る直前にね、波多野さん、教室に来たの。

波多野さんね、こっちから（上手）こう教室に入ってきて、荷物を持って、で、こっちの方

（下手）に出ていったのを、私こうして見ていたのね。
ずっと見てたの？

ううん、ずっとではなかったんだけど、でも図書室の方に走っていったのは見た。
それでその後すぐに、こっち（上手）から非常ベルの音がした。
ね？　これってアリバイじゃない？

波多野さんが犯人じゃない、っていうアリバイ。

（この発見にうれしさを抑えきれず）ね？　ね？

…あのさ、波多野さんが犯人でなかったらどうなると思う？
どうって？

犯人は別の人ってこと？

別って？

つまり、あたしたち四人のうちの誰かってこと。

雨の音

第四場

中条　とりあえず事件の整理をしようよ。

班長は先生から説明されたんでしょ。

美雪　うん。あの落とし物ボックス、職員室前のケースのことね？

あそこの中には、少し前から、誰かが忘れていったTPOOが入っていたのね。
ガラス扉には鍵がかかっていて、今日も間違いなくあったんだって。

昼頃に先生達が見ていたから確からしい。

で、それを何者かが、

前川　なにものかが？

誰かが、何か棒みたいなのでガラスを割って、盗っていったんだって。

アミ　えーなんか証拠とかないのー？

あたしお腹すいたー。帰りたーい。

美雪　波多野さんが戻るまで待ってよ。

先生からも帰っていいって言われてないから。

アミ　なんで待たなきゃいけないの？

うちの班が旅行に行けるかどうかの…瀬戸際だし。

前川　はあ？

美雪　班じゃないでしょ。波多野さんでしょ。

まさか連帯責任とか言わないよね？

美雪

でもさっき言ったじゃない。

波多野さんはやってないんだよ。

アミ

でも美雪、じゃあ…

アミ、中条たちを見る。

中条

なあに、あたしたちまで疑う気？

前川

あたし達、落とし物ボックスがあったってことも知らないし。

中条

いやそれはないけどさ。

前川

えー

美雪

そんなこと言ってないよ。あるわけないじゃない。

私たち以外の誰か。ほらクラブとか。ボールが飛んできて、ガッシャーン…
じゃなきゃよそから来た…外部の人間の犯行とか？

ほかに人がいなかったからって別に密室ってわけじゃないんだから。

中条

美雪さん…もしかしてコナン君？

前川

（クスクス）謎はすべて解けた！

中条

それは金田一少年じゃないっけ。

前川

え、金田一ちゃんとコナンくんって同じじゃないの？

中条

え？

前川

だってコナン君は大きくなると金田一少年になるんじゃないの。

中条

ばかじゃないの。

前川

ばかじゃないよー。

アミ

美雪の話、聞きなよ。

中条

いいよもう。

美雪

あなたたちは、誰がガラスの犯人かをはっきりさせたいわけよね？

中条

そういう…わけでは…

前川

だからアリバイなんて口に出したんでしょう？

中条

いいよ、はっきりさせましょう。

前川

うね…いい？（美雪の席に）ここが証言席。

中条

HERO？ じゃあ、あたしキムタクー

前川

いい？ 犯行現場は職員室前。

中条

容疑者は波多野さんとここにいる4人。

前川

問題はアリバイと動機よね。

中条

まずはアリバイからいきましょう。

前川

はいはい。

中条

じゃあまず、美雪さんは？

アミ

言ったでしょ、あたしは職員室にいたし、美幸はこの教室で片づけしてたの。

中条 ふうん、じゃあ美雪さんにはアリバイがないんだ。

美雪・アミ え？

中条 そうでしょ？ アミさんはいなくって、美雪さんが一人。

ここから職員室はすぐそこだし。

不思議なことに、美雪さんは犯人の姿も見えていないし。

それは、びっくりしちゃって足がすくんで。

美雪さんが犯人である可能性は否定できない。

アミ なにそれ。

中条 じゃあ次はあたしたちね？

前川 中条とあたしは、そのとき図書室にいたから。

職員室なんて近寄りもしませんでした。

アミ ねえ、中条さんたちさ、嶋先生は見た？

前川 だれ先生？

アミ 図書室って、いつも司書の嶋先生がカウンターにいるよね。

今日の午後、嶋先生はいた？

中条 いたんじゃないの？

前川 あたしたち、カウンターと反対のパソコンの所に座って検索してたから。

アミ さっきは本読んでたって言っていたよね？

中条 そんなの、話を単純化して伝えただけじゃない。

前川 単純？

中条 話したりパソコンいじってたり、いろいろしても、聞かれれば話してた、で済ませるよ

うなこと、あるよね？

前川 あー、服買ったり、ご飯食べたり、ゲーセン言って遊んでも…

あれ？ あたし何言いたかったんだっけ？

中条 ほらあんた、マックでシェーク飲んでても「お茶した」って言うじゃん。

そんな感じ。

前川 あーそうそう

中条と前川、ふざけ合う。

アミ ねえ、嶋先生からは、中条さん達は見えたのかな？

前川 だから見えないところにいたって言ってるじゃん。

中条 静粛に。

じゃあ私たちもアリバイははっきりしないってことでいいよ。

では最後に…波多野さんのアリバイについて。

まず疑問なんだけど、美雪さん、

どうして波多野さんがやってないってわかるの？

美雪 だから、

中条 美雪さんが見たのは波多野さんの後ろ姿だよね？

しかも非常ベルの前って言ってたけど、前ってずいぶん曖昧だよね。もしかしたら、波多野さんが現場に走っていきけるだけの

時間があったかもしれないでしょ。

前川 ねえ、波多野を見てからどれくらい後にガラスの割れる音がしたのすぐだったと思うけど。

美雪 何分？

中条 何分って、1分もかかってないと思う。

美雪 ねえ、ぼうっと立っていて時計も見ないで本当に1分ってわかる？

中条 それは…

中条 時間の思い違いなんてよくあることだよ。

美雪 特に、その人が犯人であってほしくないって思っている場合なんかは。

中条 でも、誰かが廊下を戻ってきたとしたらわかるよ。

中条 下の階を通ればいいだけじゃない。

前川 キムタクー！（拍手）

中条 したがって、波多野さんのアリバイは成立しません。

美雪 じゃあ…次は動機。

動機？

前川 こーゆー時、犯人の動機は、とかって言うでしょ。

美雪 動機なんて…

中条 あー、ってゆうか、動機って言えばさあ、アミさんだね。

アミ あたし？

中条 なんか前から騒いでたよね。

「Pop」ほしいとかほしくない、とか。

…そうかあ。

前川 アミさんには、アリバイはあるかもしれないけど、盗む動機があるんだ。

前川 ねえねえ、ほんとに職員室にいたのー？ あやしいなー。

（小声で）ばかじゃないの。

前川 なんだってー？

美雪 ねえ、

前川 は？

美雪 犯人なんてわからなくても、いいんじゃないのかな。

前川 やったのが波多野さんじゃないって、先生に説明できればいいんじゃない？

前川 はあ？ 今さらそんなこと言っちゃってさー、犯人扱いされたあたし達の気持ちが収まらないんですけど。

美雪 犯人扱いなんてしてないよ。

前川 美雪さんはしてなくても、そっちの人（アミ）はバリバリしてたよね。

ねー、もう面倒だからー。

中条　なに。

前川　決とうよ、決。

中条　ケツ？

前川　波多野が…犯人だと思う人ー。

前川・中条、手をあげる。

前川　あれえ？（クスクス）

半分じゃあケツにならないね。つまんなーい。

美雪　ちよっと待ってよ。

そもそもなんで波多野さんがまっさきに疑われるわけ？

アミ　美雪、それは…

多少…多少、悪いことをしてきたかもしれないけど、だからって即犯人だって決めつけるのっておかしいと思う。

前川　だって、TPOO持ってたよね。

美雪　え？

波多野、TPOO持ってたよね、しかも、今日こわれちゃってたよね。ってゆうことは、チョー欲しいよねー。

アミ　ねえ。

前川　なに。

中条　前川ー

なんで前川さん、波多野さんのTPOOがこわれたって知ってるの？

中条　ほら。

前川　それは…見たから。

アミ　いつ見たの？

中条　前川がいつ見たって関係ないよ。

波多野さんのTPOOがこわれてたってことは、波多野さんに強力な動機があったってことでしょ。

あたしも波多野さんが犯人に一票。

美雪　なんでそうなるの。

中条　なんでそうなるかなあ…

やっぱり日頃の行い？

美雪　違う。

アミ　…中条さんや前川さんは、いつも、ねえ、

美雪　いつも波多野さんを目の敵にして、

前川　はあ？

美雪　いじめてるから、そんなふうに言うんだと思う。

「いじめ」という言葉にショックを受けた？ …沈黙

前川 いじめ？

美雪 だれが…！

だれが、Roomを盗ったかはわからないけど、
中条さんたちが波多野さんを犯人だって言う理由はわかる。
なによ。

前川 なにって、それがいじめだから。

中条 美雪さん、それって言いがかりもいいとこだよ。

前川 ひどいよねー。

中条 私たちが波多野さんを？

美雪 それは…

アミ 中条さんたち、よく言っているじゃない？

波多野さんのこと、むかつくとか…

前川 そんなこと、

中条 ええ言ってるよ。

でもそれは、波多野さんに悪いところがあるからでしょう？

むかつくのとて悪（あく）？ それって罪なの？

美雪 そんな…

そんなふうに感じるのも、あたしたちの間で話すのも自由でしょ。

前川 だよね。

中条 あたしは中条さんのこと嫌いだよ。

でも、陰で嫌ってるってだけでイジメてるってことにはならないでしょう？

…今度のことも、波多野さんは前科もあるし、やりそうだなーっておもったから、そう言っただけだよ。

それをいじめて言われてもねー

美雪 でも…

中条 でも何？

私、見たことある。

いつだったか、波多野さんが係で集めた宿題のプリントがなくなっちゃった時…

前川 はあ？

中条 ああ、あったね、そんなこと。

波多野さんがなくしたから、あたしたちすごく迷惑した。

美雪 あのと、前川さんがプリントの束を持っていた。

前川 あたし？

美雪 その時は気づかなかったけど、後で波多野さんがみんなに責められた時思い出した。

あれはきつと…

前川 何デタラメ言ってるんだよ！

美雪　だから…

中条　ねえ？

なんでそれを今になって言うわけ？

美雪　え？　今って

あの時のことあたしよく覚えてるけど、クラスじゃ誰一人、波多野さんのことかばったりしなかったよね？

ああ…でも一人だけいたっけ…

あたしプリントなんて盗ってないよ。

前川　うん。それはわかってる。

でも、美雪さんも疑っていたなら、その時そう言えばよかったんじゃない？

美雪　その時は、だから…

中条　そうなんだー、美雪さん、いじめだと思ってたんだ、ずっと。

へえ、あたしたちいじめっ子なんだー。

あんた（前川）どう思う？

傷つくー。

前川　あたしもー。

ここらへん傷ついた。（胸を指す）

前川　あたしも、ここ傷ついた。（指を指す）

中条　って突き指じゃん。

二人ふざけて笑い合う。

中条　言ってくればよかったのに。

そしたらあたしも、いじめなんかじゃないよって言えたのに。

勝手にいじめっ子だっと思って思いこまれて、そんなふうに言われたりするのって、ショックー。

アミ　あのさ、美雪が言ってるのはそんなことじゃなくて。

へえ、そんなことじゃなかったらどんなことなのよ。

中条　（アミに近寄り）

なんかさーこれってあの時みたいだよねー

アミ　なに？

中条　本多さん。

さっきプリントの話で本多さんのこと思い出しちゃった…

中条、思わせぶりに机に触れる。

アミ　だから何の話？

中条　ううん、人を疑うのってこわいよねえ。

疑われてる方が知らないうちに疑う方はもう、そう思い込んでるんだから…

前川 そうそう、本多さんも疑う人だったねえ。

中条 本多さんと一緒に、修学旅行行きたかったのに、残念…

あ、ねえねえ、こんなふうにも考えられない？

なに？

中条 そもそもこれって、「Tromを盗った犯人はだれか？」って話だったよね。

前川 うん。

中条 犯人は、美雪さん？

美雪・アミ え？

前川 え、どういうこと？

中条 事件のことを考えてみたんだけど。

あんな派手なやりかたをする動機はなんだと思う？

え？ よくわかんない。

前川 Tromがほしいだけなら、こっそり盗ればいいよね。

それなのに、大々的にガラスなんか割っちゃって。

何が言いたいのか？

アミ 当然、犯人が誰かもめるよね。そう、こんなふうに。

で？

前川 つまり、美雪さんはうちにぬれぎぬを着せる目的で、ガッシャーン、

なんとガラスケースを割っちゃったのでした。

アミ 美雪がそんなことするわけ…

中条 こわいなー。

あたしたちのこと疑うだけならともかく、

そんなにまでして陥れるなんて。

美雪 私そんな。

前川 あたし達にしょっちゅう文句言ってたもんね、ちゃんと班の仕事してよーとか。

あ、ねえねえいいですか、裁判長。

中条 はい、前川さん。

前川 アミさんだって、動機なら条件は同じだと思いまーす。

犯人は美雪さんじゃなくて、アミさんかもー。

美雪 やめて。

前川 アミさんと美雪さん、どっちかでケツとりたいと思いまーす。

美雪 やめて！

アミ やめて！

中条 （似た口調で）やめて！

間

中条 ばっかじゃないの。

あなた達が犯人だなんてこと、あたしが本気で信じてるわけじゃない。そんなバカみたいな話。

でも、あたしたちが波多野さんを陥れてるなんて話は、同じくらいバカだと思っただけです。

ど。

前川

中条

あーあ、修学旅行行く前に気分悪くなっちゃった。

前川

帰りたいー、あーあ、雨、やまないかなー。

雨の音

第五場

気まずい空気の中、

上手から波多野がやってくる。

美雪

波多野さん。

前川

（似た口調で）波多野さん。

中条と前川、クスクス笑い合う。

美雪

どうだった？

波多野

（それには答えず）中条さんと前川さん、先生が呼んでる。

中条

おまちとおさま、事情聴取。

前川

えーもういいんじゃない？

それでも二人は上手ドアから出ていき、生徒指導室へと向かう。

美雪とアミは二人が遠ざかったのを確認してから、

アミ

波多野さん、先生にはなんて言ったの？

波多野

：

アミ

ねえ、本当は波多野さんがやったんじゃないの？

美雪

アミ！

アミ

やってないの？

ならそう言ってよ。

波多野は下を向き沈黙。

アミ　ねえ、ほんとのこと言ってよ。

波多野さんのせいであたしたちすごく大変だったんだから。

美雪　アミってば！

波多野は黙ったまま、すべてをシャットアウトするように、イヤホンを取りだし、それで耳をおさえる。

聞こえない聞こえない、何も聞こえない。

美雪はアミを教室の隅に引っ張っていく。

美雪　ねえ：

アミ　ねえ美雪、あたし思うんだけど、犯人、波多野さんの可能性もあると思う。

美雪　アミまで。

アミ　盗難っていうとき、いつも波多野さんの名前が出るじゃん。

動機が一番あるのって波多野さんだと思う。

美雪　美雪が言うとおり、あいつらにされてることを波多野さんがいじめだと感じてるんなら：

アミ　いじめなんだよ。

だったら、誰よりストレスがたまって、イライラして、何かにあたりたくなる。

ガラス割っちゃうくらい、そんな気持ちになると思う。

あたしだったら：きつと、そうなると思う。

美雪　アミ。何が言いたいのか？

アミ　美雪、ごめん。

あたし、こわくなった。

美雪　こわいって：

アミ　あたし、本多さんみたいになりたくない。

美雪　え、本多さん？

アミ　本多さん。

6月頃転校していったよね

美雪　うん、話したことはほとんどなかったけど。

アミ　美雪はへんだと思わなかった？

美雪　：どうということ？

アミ　本多さんは、お父さんの転勤で引越したから転校していったんじゃないの？　そうじゃないの？

二人は離れる。

ここで美雪は、一本の傘を何気なく取り上げて、

そして気づくのだ。

上手奥から中条たちの声。

美雪 もしかして…

ねえアミ、さっきの話、覚えている？

アミ え？

美雪 さっき中条さんは、事件は動機とアリバイだって言ったけど、もう一つあるよね。

アミ え、なんの話？

美雪 凶器よ、ガラスを割った凶器。

第六場

上手から中条と前川。

教室には五人がそろった。

中条 お待たせー

前川 わりと早かったでしょ？

中条 だって前川、「しらなーい」ばかりだもん。

前川 だって知らないもん。

アミ 次、私たち…？

中条 あ、なんか先生たち会議に入ったみたい。

少し待っててよって。

また待ち時間だよ。

前川 いつまでかかるのかなあ、誰かさんのせいで。

前川 誰かさんって？

中条 誰かさんって誰かさんだよ。

前川 誰かさんって誰かさんって誰かさん？

中条 ばかじゃないの。

前川 ぶんぶん

中条 じゃあ待ってる間に…

美雪 待って。

前川 なんで中条さんたち、今まで残っていたの？

美雪 バカじゃないの、だから事情聴取だって。

美雪 そうじゃなくて、今日の午後の話。

あの事件の前なら帰ろうと思えば帰れたでしょう？

だって雨降ってたしー

これ、前川さんの傘だよな？

え？

なんか変な気がしてたの。

前川さんたち、雨だから帰れないって言ってたけど、

傘があれば、帰れないってほどの雨じゃないんじゃない？

今どうしてそんな話するの？

前川さんは、傘を使えない…開けないわけがあったんだよね？

美雪、その傘を開く。

傘の布の部分が、刃物で切られたようにズタズタになっている。

前川さん、これ…どうしたの？

どうしたって…

それは…

中条さんは黙っていて！

前川さん！

これ、どうしてこんなになったの？

…

ガラスが何かで切ったら…

例えば、これをガラスにぶつけて割ったら

こんなふうになるんじゃない？

…答えてよ、前川さん。

永遠とも思える間…

雨音…

前川　これ、波多野さんのだよ。

美雪　波多野さん？

前川　部室に行ったら、あたしの置き傘なくなってさ、

これだけ残ってたの。

波多野さんもまだ学校にいたの知ってたから、持ってきてあげたんだよ。

美雪　波多野さん…ほんと？

波多野

前川　（無言）
ガラスを割ったのがこの傘だとすると、やっぱり波多野さんがTPO盗ったんだ。

沈黙

美雪　それ、変だよ。

前川　何が？

美雪　だって、あの事件が起こる前に、前川さんたちは部屋に行ったでしょう？

前川　さんがこの傘を持っているときに事件はあったんだよ。

その傘で波多野さんがガラスを割るって、あり得ないよ。

えーと…

前川　美雪さん、正解。

この傘でガラスを割るなんてあり得ないよね。

つまり、この傘はなにも関係ないってこと。

中条、傘をゴミ箱に投げ捨てる。

中条　じゃあ、話をTPOに戻していい？

前川　はい。

美雪　そんな、

中条　ほらちようど全員そろったし、

この中から犯人を決定します。

犯人だと思ふ人のところで手を挙げてください。

美雪　ちょっと待ってよ、

中条　ではまず美雪さん。

美雪さんが犯人だと思う人ー？

中条と前川、手をあげる。

中条　じゃあ次、犯人はアミさんだと思う人。

中条と前川、手をあげる。

中条　アミさんも犯人じゃないようですね。

うずうずする前川。

中条　前川だと思ふ人！

前川　はい！…あ。

沈黙

中条 前川も犯人ではないようです。

じゃあ、大本命の登場です。

やったのはやっぱり…

美雪 ねえ、こんなのやめようよ。

中条 どうして？

中条 美雪さんの方こそ、犯人を決めようとして…

あたしたちが犯人だって決めようとしたみたいだったけど？

それが今さら「やめようよ」？

美雪 でも

中条 それにこのままじゃ、みんな修学旅行行けなくなっちゃうよ。

美雪 でも！ こんなやり方間違ってる。

中条 なんで？

美雪 なんてって、とにかく絶対間違ってる。

なんの証拠もないのに。

中条 証拠…

じゃあ、検査してみようよ。

持ち物検査。

中条、うつむいている波多野のバッグを取り上げる。

中をゆっくりと探り、iPodを一台取り出す。

もちろんこれは波多野のものだ。

そしてもう一台、iPodが出てくる。

盗まれたもの…か？

中条 じゃあ、この結果をふまえて、やったのは、波多野さんだと思う人！。

中条はゆっくりと手を挙げる。

それを見た前川も手を挙げる。

そしてアミも、美雪から顔を背けながら手を挙げる。

最後に波多野も手を挙げた。

教室は徐々に夜の気配。

そして雨の音は徐々に弱くなる。

第七場

みなカバンを持って帰り支度である。

アミが教室を出て行く。促されて美雪も。

中条、前川、波多野の三人が残る。

中条も帰り支度で波多野に近寄る。

中条　大好きなTom、また手に入ったじゃん。

Tomが友達だもんねー。

中条笑う。前川も。

中条　せっかく前川があんたのために盗ってきてくれたんだから、感謝しなよね。

前川　修学旅行に行けないくらい、しょうがないよねー

中条　そうそう、あたしたちだってここまで待ってあげたんだし。

前川　あ、雨、もうやみそう。

中条　さ、帰るか。

波多野さん、一人で勉強頑張ってるね。

前川　じゃあね

二人が去ったのを確かめて、美雪が現れる。

美雪　波多野さん？

波多野、自分の荷物を片づけている。

美雪　波多野さん、ごめんなさい。

波多野　…なにが？

美雪　だって、波多野さん、修学旅行…

波多野　ああ。

美雪　私…

波多野　あなたが謝る必要なんてないじゃない。

それにあたし、もともとから修学旅行なんて行きたくなかったし。

美雪　嘘。

波多野　嘘じゃないよ。

美雪　でも、

波多野　（突然吐き出すように）

あの人たちと一緒にの班で一緒にの部屋でずっと一緒なんだよ。

そんなの耐えられない。きっと耐えられなかった。

美雪 でも、やったのは波多野さんじゃないのに、犯人にされて悔しくないの？

波多野 ……あたしだよ、盗んだのは。

美雪 うそ。

波多野 あなただって知ってるでしょう、一年の時だって…

美雪 一年の時…

もしかして、職員室から盗んだのも、波多野さんじゃなくて…

波多野 あたしだよ！

美雪 （波多野の反論を聞かずに）

…それだったら、それだったら余計、波多野さんがそんなことをする理由がない…

波多野 理由ならある。

美雪 え？

波多野 修学旅行に行きたくないから。

波多野 修学旅行に行きたくないから…

波多野 美雪さん。

せっかくなにかばってくれたのにごめんね。

ありがとう…

そこに中条。

中条 「ありがとう」だって。（笑う）

波多野、慌てて出て行く。

“iPod”を落として。

中条 あーあ、大事なものを置いてっちゃった。

美雪 ……

中条 波多野さんたら、ひどいよねー

せっかく美雪さんがかばってくれたのに、自分から犯人になりたいって言うんじゃ、美雪さんがかばったの、無駄になっちゃうじゃないねー。

美雪 中条さん。

中条 なに。

美雪 やっぱりあなただったの。

中条 何の話。

美雪 なんであんなことを…

中条 あたしは何にもしてないよ。

全部前川がやってくれたの。

美雪 あなたたちがやったことは、いじめ…！

中条 今さら！

今さら、波多野かばって何のつもり？

今さらって、

明日から…

…

中条 明日から、修学旅行よろしくね、班长。

…あたしさ、わりと楽しみにしてるんだ。

みんなでワイワイやるのって楽しいよね。

でも、それにノってくれない子がいると、すごいやなんだよね。

そういう子が一人いるだけで、みんなが楽しくなくなっちゃうと思わない？

だから、あたしがみんなのためにやってあげたの。

最低

美雪 美雪さんさー、今までさー、…今まであたしたちの側だったくせに。

中条 中条さんたちの側？

中条 気付いてないふりして、黙って見てたくせに、そういうのって、こっち側にいたってことでしょ？

え…

美雪 最低

中条、去る。

立ちつくす美雪。

のろのろとバッグを持つ。

ふと気づく、波多野が置いていったiPod。

美雪はイヤホンに耳を傾ける。

何の音が聞こえる？

それはわからないが、いつしか静かな音楽が舞台に満ちる。

幕――

〈おねがい〉

この戯曲は、「佐藤かつら戯曲館」への掲載にあたり記号の表記などを一部改めて打ち直し、体裁を整えたものです。ダウンロードして練習脚本などとしてお使いいただくことができます。実際に上演される際は「佐藤かつら戯曲館」ホームページにあります「上演を検討される方へ」をお読みの上、ご連絡ください。